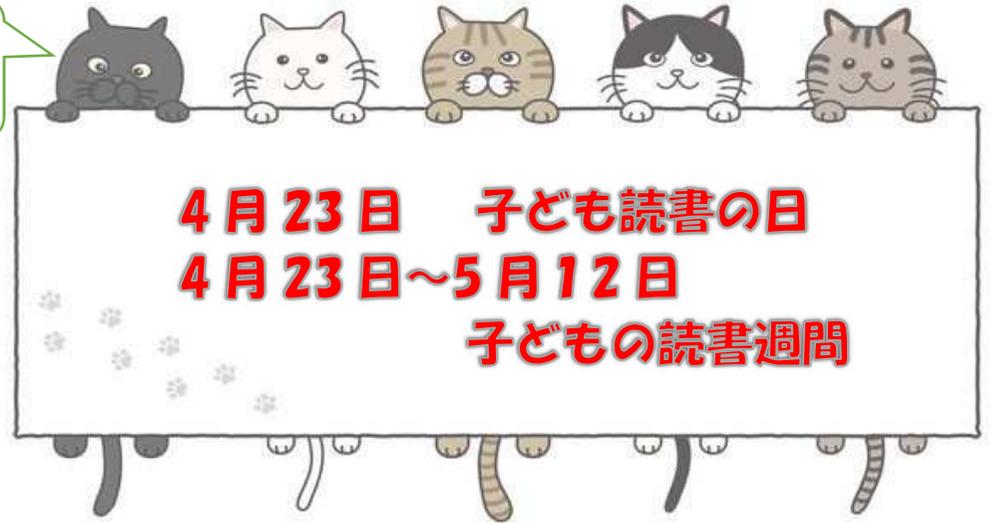


石崎小学校

としょだより



おうちのひとと
よんでね



入学、進級おめでとうございます。桜もちりはじめ、新芽の緑がさわやかな季節となりました。みなさんは何で季節を感じていますか？
図書室でも季節の本を探してみましょう。

花

暖かくなり、たくさん咲き始めた「花」、短歌や俳句などでは、ふつう桜の花をさすことが多い。美しいものやかわいらしいものをたとえていうこともある。また、はなやかでさかんなもっともよい時期のことも「花」という。

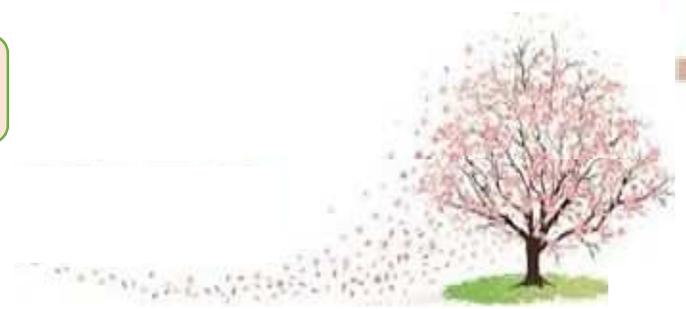
「花」を桜の意味で使う言葉はたくさんあります。たとえば「花ふぶき」は桜の花が散る様子を吹雪にたとえた言葉。花がすみ・花ぐもりなど・・・辞書でさがしてみましょう。
百人一首にもあるよ。

久方の光のどけき春の日に
静心なく花の散るらむ 紀 友則

山わらう

春になって草や木の緑が見え始め、山がのどかで明るくなる様子をいう。春になったことを山が笑って喜んでいるようだ、山を人にたとえてあらわしている。

故郷やどちらを見ても山笑ふ 正岡子規



目標冊数

みんなで達成しよう！！

1・2年生→100さつ
3・4年生→80さつ
5・6年生→60さつ



—もう読みましたか？—



白鳥などの冬の渡り鳥たちが去り、春になると、日本にやってくるツバメたち。
約5000キロもはなれた、東南アジアのほうからやってくるらしいのですが、どこを
飛んで、どのくらいかかってやってくるかは、まだ正確にわかっていないようです。ど
うして迷わずに、日本にとんでこられるのでしょうか？読んでみませんか？



みち 4

まよわずに
ひとすじに
とりたちはおいしくへと
とんでいきます

そろにも
めにみえぬみちがあるのでしょうか
そのみちをてらすのは
かすかなほしのひかりだけなのに
いそがずに
おそれずに
ちずもなくとりたちは
かなたへととおざかる

谷川俊太郎 「どきん」より